

# コウノトリ野生復帰推進連絡協議会

## 2023年8月3日

まるいち 代表 安達 陽一

# 自己紹介

- 1992年兵庫県豊岡市生まれ
- 両親：サラリーマン、祖父母：専業農家の家庭
- 6歳（幼稚園児）「大きくなったらおじいちゃんと農業をする」
- 15歳（中学生）「中学卒業したら農家になる」
- 渋々、高校、大学へ進学

# 「奇跡のりんご」に出会う



弘前大学(農学生命科学部)へ進学

# 大学での研究 「無施肥無農薬栽培圃場における栄養塩循環の解明」

作物の生育には様々な養分(特にN、P、K)が必要  
農地では「収穫」という形で外部へ元素が持ち出される  
持ち出された分の元素は肥料によって補給



# 大学院(修士課程)に進学

土壌中の微生物に着目して研究を継続



6年間の学生生活の中で日本各地の農家と交流し、  
農業の厳しさを感じる  
→就職することに(農業は早期退職後の楽しみに...)

# 豊岡市役所 入庁(2017年)

## 農林水産課へ配属

- 1年目(2017年): 有害鳥獣対策、畜産
- 2年目(2018年): コウノトリ育む農法の推進
- 3年目(2019年): 認定農業者、新規就農者支援
- 4年目(2020年): 7月に防災課へ異動

- ・豊岡の様々な農家と交流し、農業の魅力を再認識
- ・コウノトリ育む農法にも惹かれる
- ・2020年、子供が生まれ、将来を考える



# 就農(2021年4月)

- 実家の農業を事業継承
- 水稲 5ha(無農薬3ha、減農薬2ha)
- 畑作 1ha
  - ビニールハウス
    - トマト、ピーマン、ホウレンソウ
  - 露地
    - ニンジン、白ネギ、その他(約20品目)



# 課題① 未熟な栽培技術

- 機械の操作
  - 栽培管理のタイミング
  - 除草作業の精度向上、省力化
- 
- 収穫量の減少  
(10aあたり 【慣行】480kg → 【育む】300kg)



## 課題② 膨大な設備投資

- トラクター、田植え機、除草機、コンバイン
- ドライブハロー、畔塗機、肥料散布機
- 乾燥機、粃摺り機、色彩選別機、倉庫



## 課題③ 資材の高騰、据え置きの米価

- 肥料、燃料、機械、諸々の値上げ
- 米価は据え置き



## 課題④ コウノトリ育む農法の評価

- ・豊岡市民ですら、特徴や意義を理解している人は少ない
- ・コウノトリ米は美味しくないという根強いイメージ



# 目標

## 全面積無農薬栽培での経営確立

- 栽培技術の向上
- 独自販路の開拓
- コウノトリ育む農法の認知度向上、悪い食味イメージの打破